

神戸市公立大学法人 神戸市外国語大学 生成 AI 利用ガイドライン

(教職員用)

【令和 7 年 7 月 1 日】第 1 版制定

1. はじめに

生成 AI 技術の進展により、教育や業務における効率化が進んでいます。生成 AI は、教材作成、研究支援、業務効率化など、様々な場面で有効に活用できる可能性を秘めています。しかし、その利用には、法令違反や知的財産権の侵害、個人情報の漏洩などのリスクも伴います。本ガイドラインでは、生成 AI を安全かつ適切に利用するための基本的な指針を示します。

2. 目的

本ガイドラインは、本学の教職員が業務や教育・研究活動において生成 AI（例：ChatGPT など）を利用する際に、遵守すべき法的・倫理的・情報セキュリティ上の事項を明確にし、生成 AI を安全かつ効果的に活用するための基準を提供することを目的としています。

生成 AI は業務の効率化や新しいアイデアの創出に役立つ一方で、入力したデータがサービス提供者の学習に用いられ、第三者へ漏えい・拡散するリスクがあります。また、生成物の利用方法によっては法令に違反したり、第三者の権利を侵害したりする可能性もあります。

そのため、本ガイドラインを十分に理解したうえで、学生・教職員・市民の個人情報や学内外の機密情報を適切に保護し、責任ある生成 AI の利用を徹底していただきますようお願いいたします。

3. 対象

本ガイドラインは、すべての教職員（常勤・非常勤、専任・兼任、派遣を問わず）が、業務・教育・研究を行う際に適用します。

適用範囲は、本学情報セキュリティポリシーが定める対象組織と同一とし、学内のすべての部局・施設を含みます。

国が構築・利用が制限されている生成 AI を扱う場合は、当該制限を遵守したうえで利用してください。

4. 生成 AI の利用に関する基本方針

(1) 適切な利用範囲

生成 AI は、業務の効率化や教育・研究活動の支援に活用できますが、使用目的が合法かつ倫理的であることを確認してください。違法行為や不正利用を避けるため、常に適切な範囲で利用してください。

(2) 業務・教育・研究活動への活用

生成 AI は、業務・教育や研究活動を支援するツールとして有効ですが、生成された情報が誤りや偏った情報を含む可能性もあるため、その内容を盲信せず、必ず自らの調査で裏付けを確認してください。

5. 生成 AI 利用に際しての注意点

5-1. データ入力時の留意点

(1) 著作物の利用

他者の著作権を有する作品（文章、画像、音楽等）を生成 AI に入力する際は、その利用方法に注意が必要です。生成 AI が既存著作物を模倣した場合、その生成物が著作権侵害に該当することがあります。生成物の公開や配布する前に、既存の著作権に対する調査を行い、法的リスクを避けてください。

(2) 商標・意匠の使用

商標や意匠として登録されたロゴやデザインを生成 AI に入力する行為は商標権・意匠権侵害に繋がる可能性があるため、商用利用する前に、生成物が他者の商標や意匠に類似しないかを確認してください。

(3) 個人情報の入力

生成 AI に個人情報を入力することは、入力したデータがサービス提供者の学習に用いられ、第三者へ漏えい・拡散するリスクがあるため避けてください。

(4) 機密情報の取り扱い

自学内や外部企業との間で秘密保持契約が結ばれている情報を生成 AI に入力することは、その契約に違反する可能性があるため、避けてください。また、機密情報が漏洩した場合、法人の信用に重大な影響を及ぼすことがあります。

(5) 学習データ利用拒否設定

本学で利用する全ての生成 AI サービスにおいて、ユーザー入力が次世代モデルの学習に利用されないよう設定（オプトアウト）を行ってください。（※具体的な手順は

サービスによって異なります。利用する各サービスの公式ドキュメントも確認してください。)

5-2. 生成物利用時の留意点

(1) 生成物の内容確認

生成 AI の出力結果は、必ずしも正確ではありません。生成された情報には誤った内容や偏った情報が含まれている可能性があるため、出力された情報をそのまま信じず、自らの確認を行ってください。

(2) 著作権侵害のリスク

生成 AI が生み出した生成物が他者の著作権を侵害していないか、十分に調査(フレーズ検索・コピー検出ツール(Turnitin/Copyscape))してください。特に、生成された内容が既存の著作物に似ている場合、その生成物を商用利用することは著作権侵害に繋がる可能性があります。

(3) 商用利用のリスク

生成 AI を利用して作成した生成物を商業目的で使用する際、その生成物に著作権が発生しない場合があることに注意が必要です。生成物が商用利用に適しているか、利用規約等を確認し、法的リスクを回避してください。

(4) 倫理的配慮

生成 AI を使用する際には、出力された内容が倫理的に適切であることを確認してください。名誉毀損、差別的表現、不正確な情報が含まれていないか、利用前に必ずチェックしてください。

6. 生成 AI における倫理的配慮

生成 AI は、学問的・教育的な利用を促進する一方で、利用者が倫理的に適切に運用することが求められます。生成された情報が社会的に不適切な内容や、誰かの権利を侵害していないかを常に意識し、利用することが重要です。

7. まとめ

生成 AI を教育や業務に活用する際は、その便利さに加えて、法的リスクや倫理的配慮を十分に考慮することが求められます。本ガイドラインを遵守し、安全かつ効果的に生成 AI を利用してください。疑問点があれば、所属部門の担当者または法務部門に確認を行い、適切な対応を心がけましょう。

生成 AI 技術は急速に進化しています。このため、今後の社会情勢や技術の発展に応じ

て、本ガイドラインは随時見直し、更新される予定です。最新の情報を反映させることで、より適切に生成 AI を活用できるようにしていきます。